



第 12 回小論文グランプリ

入賞作品集



京都府教育委員会

はじめに

皆さんがこれから生きていく時代は、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新といった変化が急速に進行し、将来の変化を予測することがますます困難になっていくと言われています。まだ、だれも直面したことのない課題に対して、どのようなアプローチをしていけばよいのか、正解のない問いに最適解を導き出す力が求められています。

今回、第十二回目となる小論文グランプリの目標は、「書くこと」を中心に、「読む力」「書く力」を総合的に高めながら、中学校修了段階で一二〇〇字程度の小論文を書く力を身に付け、社会に対応した実生活で活用できる力をはぐくむことです。生成Aーが発達する中で、人間の書く力は不要になる、という主張もあります。果たして本当でしょうか。どのような文章が論理的か、相手に伝わるのか。優れた文章とはどのような文章か、自分なりのイメージをもっていないと、生成Aーに「こういう視点で文章を作って」「ここをこう直して」という指示はできません。そう、書く力をもっている人にこそ、生成Aーは大きな武器になります。

さて、小論文グランプリは、テーマを「学習・活動・体験等を通じた『学び』」に絞って気付いたこと・向上したこと」と設定しています。皆さんはそれぞれの小論文を書くにあたって、どのように自分が論じる内容を決定したでしょうか。

自分の考えを論じる出発点として、「何を書くのか」ということ」を常にもっていることが大切です。皆さんがSNSを見ているとき、好きなジャンルの動画や広告ばかりが出てこないでしょうか。これはSNSの

機能で、これまで閲覧した情報に興味をもっていると判断され、関連する情報ばかりが表示されるようになるのです。便利な機能ですが、まだ調べていないこと、今、興味をもっていないことには出会いにくくなり、世界が狭くなってしまつおそれもあります。皆さんはぜひ、未知の情報も意識的に集めるようにしてください。その上で、情報について「自分がどう思うか、なぜそう思うか」を論理的に考える。その考えを、周りの人と積極的に交流する。そうすることで、自分の考えがより広く深いものとなり、「何を書くのか」ということを常にもてるようになります。

第十二回小論文グランプリには、【文集作品の部】五二校、【個人作品の部】一二二点の応募がありました。

この作品集には、小論文グランプリ【個人作品の部】の最優秀賞と優秀賞の作品を収録し、作品ごとに講評が付けてあります。また、学校単位で多くの生徒が取り組んだ【文集作品の部】は、最優秀賞と優秀賞の学校名と総評を掲載しています。これらの作品から書き手の思考の足跡を深くたどりながら、学びや気付きを読み取り、是非今後自分が「何を書くのか」ということを考える際の参考にしてください。

これからも、小論文グランプリが、一人一人の進路選択や将来の夢の実現に役立つことを信じ、より充実、発展していくことを祈念しています。

京都府教育庁指導部学校教育課長

中村 義勝

第十二回小論文グランプリ

A分野：国語、社会、数学、理科、外国語
 B分野：音楽、美術、保健体育、技術・家庭
 C分野：道徳、特別活動、総合的な学習の時間

(頁)

▼総評

1

〔個人作品の部〕

◎最優秀賞

A分野

「絶対」ってなんだろう。

亀岡市立大成中学校

三年 湯浅 紘翔

3

B分野

「正解」のない世界

福知山市立大江中学校

三年 佐金 紬

4

C分野

地域活性化をつなげるには

京都府立福知山高等学校附属中学校

三年 小林知奈未

5

◎優秀賞

A分野

翻訳作品の違和感

京田辺市立田辺中学校

二年 葦田 悠羽

6

A分野

人類の進化

京丹波町立蒲生野中学校

二年 小川 颯介

7

A分野

「なんとなく」で終わらせない意味調べ

京都府立福知山高等学校附属中学校

三年 高橋 美鈴

9

B分野

料理と青色の魔法

木津川市立木津第二中学校

二年 宮阪 歩花

10

B分野

音楽の秘めたる力

亀岡市立南桑中学校

三年 水原 颯太

11

B分野

けんかはいいこと？

福知山市立桃映中学校

三年 森本 珠希

12

C分野

惹きつけられる発表

亀岡市立南桑中学校

三年 並河 千聖

13

C分野

「普通」を見つめ直して

亀岡市立育親学園

八年 秦 小羽音

14

C分野

恋の魔法

京丹波町立蒲生野中学校

三年 村瀬 花春

15

【文集作品の部】

最優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

綾部市立八田中学校

京田辺市立田辺中学校

木津川市立木津第二中学校

京丹波町立蒲生野中学校

綾部市立綾部中学校

▼文集作品の部 講評

【資料】

小論文はどのように受けとめられるか 作品を審査する眼

小論文を書くための手引き

▼総評

○総括

1. 総論

小論文グランプリは、今回で12回目を迎えました。今回から学校単位の応募を促すために、学校文集として応募したもののことから個人作品の応募を行うという、二段階の応募形式としました。そうすると、52校から総計498編の応募があり、その中から個人作品に122編のエントリーがなされるという結果になりました。応募数としては近年にないほどの数です。コロナ禍の影響がなくなり、落ち着いて作品創作に臨めたということがあるのかもしれませんが、京都府の中学生たちの文章表現意欲が強く感じられた応募状況となりました。

内容面にふれる前に、形式面、つまり分量などの条件について述べます。例年、せっかく応募してくれていても、分量の約束が守れず、失格になる作品が一定数見られたのですが、今回はほとんど見られませんでした。しかも、これまである程度見受けられた乱暴な文字も今年ほとんど見られませんでした。このことから、応募者の中学生のみなさんの真摯な、真面目な姿勢が認められました。

さて内容面ですが、形式面の約束を守ることが内容、質にかなり影響しているようでした。とりあえず書いておけばいいという態度が見られず、中学生なりの思考、考えの過程と結果がしっかり文章に表されています。「文は人なり」という格言がそのままではまるよつな文章が多く見られました。これは、文章で論じられている論題の質にも及んでいました。このことを考えてみたい、追求してみたいという向上心のような気持ちに溢れている文章が大半を占め、大いに好感がもてました。本日、晴れて入賞したみなさんの作品はその代表といえます。どれ

を読んでも訴えたい、主張したいという強い思いが感じられました。

2. 分析

みなさんの文章を分析した結果について、まとめて述べます。

・段落数、一文の長さ

毎回、審査を終えた後、優れた小論文の条件を探るために、同じ条件のデータを取っています。12編の作品の平均段落数と一文の長さです。段落数は、6・9段落です。全体が1200字ですから一段落平均174字となります。使っている原稿用紙は一行20字ですので、9行くらいで段落を作っていることが見受けられます。昨年度は例年通りで、6・2段落でした。今年は段落数が増えている印象でした。よく見ると、前半の段落数が多く、後半少なくなっていました。前半の一段落あたりの字数が少なく、後半増えるということでした。前半、小刻みに論題、論じたいテーマについて述べていき、テーマがはっきり定まるとじつくりと字数を使って追求している印象でした。なるほどと思わせられる一つの手法が現れていると思われました。

一文の長さですが、41・1字でした。これはこの12年間大きな差が見られず、今年も同じ傾向を示していました。ですが、こちらも、前半の文は短く、後半は長くなっていました。さきほどの段落と同じ分析結果になります。前半は、自分の発見や問題意識を短い文で書き連ねていき、一定の論題が設定できると、その追求のための文が長くなっているのです。これはふだん私などが学術論文を執筆するときとまったく同じ特徴です。もちろん、学術論文は詳しくさが求められますので、一文あたりの分量は1000字を超えることは普通で、後半になると、2000字になることもあります。この中間に大学生の書くレポートが位置します。中学生よりも長く、研究者よりも短いのです。中学生の小論文から大学生のレポート、そして研究者の論文へと同心円的に拡大していく感じで

すね。少し強引な言い方をすると、文章が通用する社会の枠の広がりに見合うように分量が増えているということができます。

この数字的な特徴を小論文を書くときにどのように使えばいいかというと、最初から数字を意識して書くことはできませんので、書き終わったら、達成感が弱かったり、違和感があったりした際に数字を数えて、そのことを確かめるために使うのがいいでしょう。発見や問題意識から論題の設定へ、そこから論述へと進むときの目安として活用してもらおうと安心できるようにしよう。

・題名

最優秀、優秀作品の題名は、「絶対」「ってなんだろう」、「正解」のない世界」、「地域活性化をつなげるには」、「翻訳作品の違和感」、「人類の進化」、「なんとなく」で終わらせない意味調べ、「料理と青色の魔法」、「音楽の秘めたる力」、「けんかはいいこと?」、「惹きつけられる発表」、「普通」を見つめ直して、「恋の魔法」でした。従来からみられるオーソドックスな題名も見られますが、多くは、筆者自身の問題意識をそのまま反映させたものとなっています。しかも、「なんだろう」や「○○」には、「違和感」、「見つめ直して」のように内容に期待をもたせる手法を駆使していました。「魔法」も2編に使われており、読み手にワクワク感をもたせる効果を出していました。特に「恋の魔法」には、驚かされました。

・用語、文末表現など

題名以外にも、用語、文末表現などに的確さ、効果の高さが現れていると感じました。中学生として日ごろの学びの中から獲得した語彙力、文末表現力を適切に用いようとしているように思われました。

・首尾呼応・首尾一貫性

文章全体の統一性のことです。今回の応募作品の特徴として、書き出し、つまり論題、課題と末尾の結論との関係がきちんとできていること

が指摘できます。これまでは、書いている途中で他の方向へ論が行ってしまい、最終的に別の目的地に着いてしまっている文章がある一定数見られていたのですが、今回はそれが激減していました。論理的文章である以上、最初から最後まですじみちを確保することが重要です。これは意識を強くもてばできることです。応募作品全体からこの意識を強く感じることはできました。

3. 個人賞

個人賞全体の地域的な特徴として、総数12編の内訳は、亀岡市4編、福知山市4編、京丹波町2編、京田辺市1編、木津川市1編でした。地域的な集中が見られたということですが、多くの入選者を出した市町の取組の姿勢として評価することができるでしょう。先生方が生徒の文章力をきちんと育ててくださっているという印象でした。

では、個別に見ていくことにしましょう。

「絶対」ってなんだろう。

亀岡市立大成中学校 三年

湯浅 紘翔

「絶対」という言葉は便利だ。「絶対、美味しいやん」とプラスの意味として使えるし、「絶対、無理」とマイナスな意味でも使える。なんだから不思議である。この小論文のテーマを決める際に、「絶対解」というものがあると知った。「絶対解」とは誰が答えても同じ答えになるものを指す言葉である。だが、「無理」の基準は人によって異なる。また、「美味い」と判断する味覚もそれぞれだろう。私はこのようなことを考えるうちに、「絶対」という言葉の使い方にも悩むようになった。そこで、この小論文を通して絶対とは何か、どのように使っていけばいいのかを考えていきたい。

はじめに、「絶対」の意味を調べてみることにした。絶対とは「他に並ぶものがないこと」という意味だった。また、対義語についても調べた。対義語は「相対」で、意味は「見方によって違うこと」だった。つまり、絶対とは他の可能性を排除した上で使われる言葉なのだろう。対して、相対とは多面的に見て導くということではないだろうか。

皆さんはガリレオの地動説の話を知っているだろうか。ガリレオはそれまで多くの人に支持され、千年以上信じられていた天動説を否定し、地動説を主張したのだ。人間は未知の物事において大多数の方を選ぶ傾向がある。しかしそんな中で地動説を主張した人々は、「絶対」と言われていたことを深く考え直したことで新たな可能性を見つけてきたのだ。私がこの事例から学ぶべきだと思うことは、「絶対」という

言葉を使うことと可能性を捨てることは違うということだ。絶対と言われていることでも、それを考え直すことやさまざまな視点で見ていることなど「相対」の考えをもとに思考していくことが大切なのではないだろうか。

次に算数を例に考えてみよう。一＋一＝二であることが絶対でないと世界は混乱してしまう。ほとんどの人がこのことに疑問を持ったことはないだろう。しかしある時、先生は私たちに粘土で考えるところだろうという問いを投げかけてきた。確かに粘土なら二つの塊を合わせても結果的に一つの大きな粘土になるだけだ。これでは一＋一＝二という絶対が成り立たない。数学ではこの絶対が前提で考えられているから、そう簡単に、それを疑って変えられるものではない。しかし、それが全てだと信じることはせず、粘土の例のように、場合によってはその考えが「絶対」とは言えないことがあるということを理解しておく必要があると思う。

絶対とは今では変え難い事実である。しかし、それが全てかということではない例外がある。私たちはそれを知った上で絶対という言葉を使すべきだ。「絶対」という二文字に囚われてはいけない。何かを否定して考えるのではなく、さまざまな見方で思考して、自分の中でたくさんの方の考え方のストックを持つておこう。

講評

初めて出てきたテーマでした。よく似たことばで最近「無双」という言葉が流行っていますが、この文章では、何かと比べて強く固有の位置を占めるこのことばの利便さ、不思議さへの気づきから論題を設定し、「相對」という対義語との比較考察を行っていきます。それから中世の歴史的事実の地動説が出てきた意味や「一十一」にならぬ考え方などを論じて、最終的に「相對」ということばの持つ価値を結論として集約しています。全体的に論理に隙がなく、緻密な思考の組み立てを印象付けることに成功しています。論理構成の優れた小論文の好例といえるでしょう。

最優秀賞 (B分野)

「正解」のない世界

福知山市立大江中学校 三年

佐金 紬

世界のあらゆる場所に美術館がある。多くの人々がそこへ足を運び、何かを得る。他人が描いたものを見て、感じ、何を得ているのだろうか。芸術家という人は何のために自分の思いを表現するのだろうか。私は、芸術の存在する意義について考えていきたい。

そもそも芸術とは、作者だけの心で感じる思い、物事への価値、感覚などを表現したものである。制限は何ひとつないから、自由に創造できる。では、作品に対する考え方が、作者も見る人全員も同じになるのだ

だろうか。

そこで、私のクラスメイトに向けてアンケートを行った。ピカソの有名な作品「ゲルニカ」について、ひと目見てどんなことを感じるか好きなように書くアンケートである。結果として、「怖い」「迫力がある」「何か物語を感じる」などの様々な解釈があった。ちなみに私は「強く誰かに何かを訴えている気がする」と解釈した。つまり、一人一人にその作品に対する感じ方は異なっていた。誰しもが同じ解釈をするとは限らず、見た瞬間の、見た人の心理状態、経験などによって解釈は大きく異なってくる。どのような解釈も、その人のその時だけの感情が見たものとながって生み出されたものであり、間違いなど存在しない。学校の美術などの鑑賞の授業で、「正解はない」と言っているのはこのことではないか。芸術は無制限の想像で表現されたものだから、それだけの果てしない数の解釈や考え方があり、解釈や考え方に「正解」などそもそもないのだ。芸術家が作品を作るのは、このことを見る人に伝えるためでもあると私は考える。ピカソが「ゲルニカ」について残した言葉がある。

「牡牛は牡牛、馬は馬だ。鑑賞者は結局、見たいように見ればいいのだ。」と。これはまさにその通りだ。

また、アンケートの解答に「戦争を意識しているのか」や「人間の存在価値について考えさせられる」というものがあった。実はピカソはスペインの内戦を題材にして、「ゲルニカ」を描いたのだ。ピカソは「人物や動物の悲嘆や苦痛にもがく様子」を表現し、伝えたかったのだ。アンケートにその解答をした二人の解釈が、ピカソの伝えたかったことに近いのは、この二人がピカソの思想を探ろうと考えたからだ。これが鑑賞ではないか。自分の解釈だけでなく、作者の解釈、作品に込めた思いを読みとろうとする。鑑賞は芸術を感じるこの醍醐味だと考える。

全く同じ価値観をもった人間などいない。解釈が異なるのがほとんどだろう。そこで、自分とは異なる他人の意見を知ること、様々な考え

方を理解でき、自分の考え方を深めることにもつながるだろう。

芸術は、今の自分からその時だけの解釈を生み出させる。さらに、作者の思想を考える鑑賞へと促す。自分、他人、作者それぞれの考えから、「正解」の存在しない世界が広がり、深く入り込んでいくことだろう。

講評

題名から道徳の問題を扱った文章かと思われました。ところが意外にも美術を取り上げた作品でした。美術作品、なかでも絵画作品の解釈の多様性について論じたものです。手法として自分の意見を仮説として提示し、そこから論述するのではなく、クラスメイトに向けて行った「ゲルニカ」についてのアンケートの結果分析から解釈の多様性を考え出し、その理由を追究していきました。これにピカソ本人の見解を合わせて考察しています。最終的に鑑賞する自分、それに他者、作者の三つの視点から捉えることの重要性を唱え、最終的に「正解」のない世界を証明しました。客観性を保ちつつ論究していく小論文として完成していました。

最優秀賞 (C分野)

地域活性化をつなげるには

京都府立福知山高等学校附属中学校 三年

小林 知奈未

「地域活性化」という言葉を耳にしたことはあるだろうか。地方では過疎や少子高齢化が大きな問題となっている。このような状況に対して多くの場面で地域活性化を掲げている様子が見られる。

そんな地域活性化だが、私は従来、短期間でも人を呼び込み、盛り上がりを見せることができれば成功だと思っていた。例えばインスタ映えスポットを作ったり、目新しいお祭りを仕掛けたりすることだ。しかし、短期間だと盛り上がりは短く、その状態がすぐに収束してしまう場合がある。このような状態は地域活性化と呼べない。そう考えた。では、長期的な地域活性化には何が必要なのか。授業を通じた学びから考察したい。

私の学校では、みらい楽という総合的な学習の時間がある。その中には地域のもつ課題についてグループで考え、改善を目指した企画の立案実行をする。私のグループでは一人のアーティストの方にご協力いただいている。彼女は開催するイベントを通して、アートを楽しんでもらうことだけでなく、人との関わりが生まれることも重視しておられるそう。そこでおっしゃっていたのは「地域活性化は人の関わり副産物である」ということ。つまり、活性化させようと人を呼びこむことを地域活性化と呼ぶのではなく、人が関わるといふ場面を作ることが結果として、地域活性化になるといふことだ。

確かに人がその場所で集まるだけでは冒頭で述べた短期的な地域活性

化で終わってしまう。一方、訪れた人が土着の人と交流を深めたり、新たに来た人同士で関わり合ったりすると、その土地にそれぞれの新たな居場所が生まれる。それがたねとなってまた来たいという思いが芽生える。この思いが長期的な地域活性化につながるのではないだろうか。

そして、この推察に納得感が生まれた機会があった。福知山で行われている地元企業の魅力を伝える職業イベント「ふくザニア」のボランティアに参加させていただいた時のことだ。イベントは四年ぶりの開催であったが、初めて知り合った人も、以前のイベントで知り合い、久しぶりに再会した人たちも自然と会話をかわし、温かく活気のある雰囲気包まれた。このイベントの様子を見て、人の関わりが生まれる場面を作り、それを継続的に提供し続けることは地域に各々の居場所のたねをまくことだと実感した。つまり、長期的な地域活性化を目指す道の一つとして、人の関わりを構築し、それを継続していくことが必要なのだ。

地域活性化。その成功の形を定義づけることは難しい。しかし、人の関わりを生み出し、そしてそれが緩やかにでも続いていく中で生まれた物は地域にとっての副産物となる。生み出されていく副産物が続いていく限り、地域にとっては決してマイナスにはならない。

地域活性化とは、そのような流れの中でもたらされるものなのではないだろうか。

講評

「地域活性化」という論題はこれまでも多く見られたもので、ありがちなテーマだと思われました。「地域活性化」は重要だという主張がほとんどでした。ところがこの文章を読み進めてみると、強い主張、思い込みの考えというものはなく、冷静な分析に基づく見解をまとめたものになっていました。短期的、長期的という視点から「地域活性化」を捉え直し、「短期的」な「活性化」の弱さを見出し、「最終的に「人の関わり」を「構築し、継続すること」という一見平凡に見えて簡単には揺るがない結論にたどり着いています。中学生らしい丁寧な論理の組み立てが特徴となっている文章でした。

優秀賞 (A分野)

翻訳作品の違和感

京田辺市立田辺中学校 二年

葦田 悠羽

あなたは、海外作品が翻訳されたものを読んで、その時に何か違和感を覚えたことはないだろうか。

私の趣味は読書で、今までに多くの本を読んできた。しかし、海外作品はあまり読まない。読んでみると、言いようのない違和感を覚えてしまうからだ。面白そうだと思っても、海外作品であると、読まないこともある。ある英語の授業でその違和感が何か分かった気がした。「スーホの白い馬」について学習したとき、翻訳文が小学生の時に習ったもの

とは少し違ったように感じたのだ。外国語を日本語に訳したとしても、必ずしも原文と同じように伝わるとは限らないのではないかと、また、伝えようとしたことが伝わりきらないこともあるのではないかと。それが違和感の正体なのではないかと考えた。

日本語の中には、簡単に翻訳できない言葉が存在する。例えば「木漏れ日」という言葉だ。これは、木々の間から日光が差し、風情を感じさせる風景に使う言葉である。しかし、この言葉は簡単に翻訳できない。この言葉は、木々の間から日光が差し、という意味は伝えられるものの、この言葉から日本人が受ける趣までを伝える適切な言葉がなく、訳しても伝わりきらないのである。「侘び寂び」も同様で、これも日本人の美学を表す言葉であり、他言語に訳すのは困難だという。

反対に日本語にじつらしい外国語も存在する。例えば、「恥ずかしい」を意味する言葉は、「ashamed」「embarrassed」という二つの言葉が存在する。それぞれ、「間違いで気まずい思ふ」「道徳的に間違ったことをしてやましい気持ち」ということを表すが、先ほどの「木漏れ日」と同じように日本語に英語の表現を的確に一言で表す言葉がないのだ。

また、言語はその言語が誕生した地域の文化と密接な繋がりがある。皆さんはきくと、食事をする前に手を合わせ、「いただきます」と言うだろう。「いただきます」は食事ができることを当たり前と思わず、感謝する気持ちを表す言葉であり、日本の文化のうちのひとつだ。これを英訳すると、「やあ食べまじょう」という意味に変わってしまい、「いただきます」の本来の意味とはかけ離れているように思える。言葉は、言葉そのものの意味だけではなく、そこに込められた想いも含めての言葉なのだということがよくわかる。

私が海外作品に感じていた違和感、それは、翻訳でも外国語の原文をそのまま日本語には訳せないことの結果なのだと分かった。同じような言葉でも伝わり方が違ったり、深い意味までを翻訳で伝えることはでき

なかつたりする。それは、言語がその地域の文化や思想と深い繋がりがあるものだからだ。それも言語の魅力であり、翻訳に頼るのではなく、自分から文化と共に言語を学ぶことで、よりその作品の良さを感じる事ができるのではないかと考えた。

講評

この小論文は、着眼のすばらしさが特徴です。海外作品の翻訳はあまり読まないという自分の習慣を分析するところから論を始め、原文と翻訳との違和感を確定しています。そこから日本語には簡単に翻訳できない言葉があることを証明し、次に逆に日本語に訳しづらい外国語があることもまた証明しています。それはその言語が誕生した地域の文化との関係によるということも突き止めています。等身大の無理のない小論文に仕上がりました。

優秀賞 (A分野)

人類の進化

京丹波町立蒲生野中学校 二年

小川 颯介

生態系の頂点に君臨し、地球を支配している生物。それは人類、ホモ・サピエンスだ。

だが、私にはこの事実について納得のいかない点がある。本来であれば、環境や他の生物に対して優位を取れる、体が大きく強い者がこの座

についていると考えるのが自然だ。人類を除くと、ほとんどの生物でその条件が当てはまる。タンスの角に小指をぶつけるだけでのたうち回り、弱さを実感するような我々人間は、決して強い生物ではないはずだ。

ではなぜそんな人類が頂点に君臨しているのか。それに対する私の考え方を述べたい。

まず、生態系で上位に立ち、人間がいなければ地球を支配していた可能性もあるタカなどの猛禽類を例に考えてみる。彼らは著しく高い視力、強靱な筋力と飛行能力、高い知能など、挙げれば挙げるほど「強さ」をもっている。一方人間はどうだろう。出産時のリスクの大きさ、足の遅さ、皮膚も薄く首が無防備で等々、数多くの弱さにまみれている。

にも関わらず人類の方が上位に立っているのは、知能の高さに起因するということ意見はよく耳にする。ではなぜそれが有利に働くのか。私の考える特徴を二つ挙げようと思う。

一つ目は、「想像」することだ。人類は発想や想像が得意だ。私たちは誰もが何かを思いつくことができ、その思いつきを実現するための「手」という道具を備えている。また、それらの思いつきを言葉で仲間に伝え、複数人で行動を起こすこともできる。「知能が高い」とされる鳥類や哺乳類などもいるが、道具を扱えるのは霊長類だけである。その霊長類でさえ多くは予測が苦手、複雑な道具は扱えないという。

そしてもう一つは「進化の種類が異なる」ということである。これが私の最も主張したい特徴だ。進化とは元来、世代をまたぐごとに周囲の環境に適応した個体が生き残り、それを繰り返して種が変化していくことだ。ホモ・サピエンスの遺伝子は三十万年前の登場以来、生物としてはほとんど進化していないらしい。当時と比べ、人類の生活様式や文化は劇的に変化しているにも関わらず、である。そこで私は、人類は「周囲の環境を進化させる生物」と言えるのではないかと考えた。他の生物とは違い、人類はその高い知能と想像力で、自分自身の周りの環境を変

えてきた。実際に辺りを見回してみると、身の回りは人間の発明で作られたものばかりである。それは他の生物が辿る進化とは全く異なる進化の形だと私は思う。

人類はその歴史の中で様々なものを生み出し、自分たちではなく身の回りの環境を変化させてきた。「想像」する力をもつ私たちは、思いつきや小さな気付きを大切にすることで「進化」を生み出すことができるのだ。それはつまり、人類はまださらに進化できるといことだと私は考える。だからこそ貴方も、自分を進化させるために日常の「気付き」を大切に、自己研鑽を重ねてほしい。

講評

最初、論題が大きすぎるのではないかと不安を感じました。しかし、まず人間の弱さを分析した上で、人間の特徴として「想像」「予測」を挙げて、他の生物との決定的な差異を明らかにしています。次に、人類は、その「想像」と「知能」によって「周囲の環境」を進化させる生物」として、他の生物と比べて、「進化の種類が異なる」ことを見出しています。やや具体性に欠けるところはありますが、説得力が高い小論文をまとめあげました。

「なんとなく」で終わらせない意味調べ

京都府立福知山高等学校附属中学校 三年

高橋 美鈴

小学生の頃に辞書の使い方を学んだ。以来私たちは授業で様々な言葉を調べてきた。

意味調べの際、調べるよう指示される言葉は全く分からない言葉だけではない。見た目や響きからイメージできる言葉など、なんとなく分かる言葉もある。全く分からない言葉が話の中に出てくれば内容が理解しづらくなる。従ってそれを調べる価値はあると言える。しかし、なんとなく分かる言葉は、文脈と照らし合わせて違和感が無ければ内容が頭に入ってくる。そうすると、なんとなく分かる言葉も調べる価値は本当にあるのだろうか。意味調べで得られること三つをもとに考える。

まず一つ目は言葉の意味を構成する字の意味から深く納得できる点だ。例えば「親切」という熟語で考える。この言葉については恐らくどんな人でも「思いやりのある」という意味は認識できる。だが改めて字面を眺めるとどうだろう。「親」「切る」という言葉で成り立っているのに、そんな意味になるとは腑に落ちなくなる。そこで意味調べをきっかけとして「親」「切」の意味を調べる。すると「親」は「親愛」と同様に「フレンドリーな」という意味を、「切」は「懇切」と同様に「心から」という意味をもち合わせていることが分かる。ゆえに「親切」は「思いやりのある」という意味になる。このように言葉を構成する文字の意味を知ることが、意味と言葉の見た目の繋がりに納得できるのだ。

二つ目は言葉の誤認を防ぐことができたこと三つ目だ。これを「姑息

という言葉で考える。これは誤って使われやすい言葉の一つで「ずるをする」という意味で誤用されがちだ。しかし、元来の意味は「その場しのぎ」という意味である。誤って使うと、正しい使い方をしている人と話に齟齬が生まれる。だから認識しているつもり言葉でも、言葉を認識しておくことが大切なのだ。さらに、一文字ずつ調べてみることで「姑」には、「先ず」、「息」には「休まる」という意味があると分かる。従って言葉に納得し、再び誤用することを防ぐことができるだろう。

三つ目は細かなニュアンスの違いを知れるという点だ。例えば地理の先生が仰っていた話では、「アイトントノー」という言葉は、「知らない」という意味は通じるが海外では突き放したようなニュアンスにとられるぞうだ。大体の意味は合っても受け取られ方まで把握しておかないと、失礼に思われる使い方をしてしまうこともある。だから、なんとなく分かる、で終わらせずに深く意味を知っておくことが重要である。

このように意味調べには言葉の深い意味を理解し、誤認を防ぎ、ニュアンスを把握できるという効果がある。全ての言葉において意味調べの意味があるのだ。なんとなく分かる、だけで終わらせてはいけない。言葉に納得し、使い方を学ぶことで、言葉は初めて手に入るのだ。

講評

不思議な題名ですが、論題の設定の段階からテーマを掘り下げていきました。日常の言葉の意味について、曖昧さ、浅い理解を防ぐために「意味調べ」があるとして、まず「親切」という言葉を例に、この語を構成する字の意味を「親」と「切」に分けて的確に示しました。次に「言葉の誤認」の視点で「姑息」という語の本来の意味を分析しました。全体的に「違和感」「納得」「齟齬」などの用語を駆使し、丁寧に論を組み立てており、驚かされました。

料理と青色の魔法

木津川市立木津第二中学校 三年

宮阪 歩花

あなたは「青色」を見て、何を感じるだろう。爽快感、冷たい、知的、清潔感……。そんな青色は、私たちの身の回りにたくさんある。しかし、私はあることに青色が使われているのをあまり見ない。それは、「料理」だ。いろいろな役割をもつのに、青色の料理は普段見ない。そこに私は疑問をもった。

なぜ、青色の料理が少ないのだろうか。

理由は二つあると考えた。一つ目は、青色のもつ心理的効果だ。ために、ルーが青いカレーを想像してみよう。すると、いつもはおいしそうに見えるカレーでも、途端に食欲がなくなってしまう。これは、青色の「興奮を抑えて気持ちを落ち着かせる」という効果が原因だと考えられる。一方で、料理によく見る肉などの色、茶色の心理的効果はどうだろうか。茶色には、「アドレナリンを分泌し興奮を促す」という効果がある。これによって、私たちは料理に対する関心や興奮が掻き立てられるのだ。つまり、色による効果で、同じ味でも感じ方に変化が現れるのである。

二つ目の理由は、青い食べ物Ⅱ危険だという知識の共有だ。青い食べ物には毒があるものが多い。例えば、ジャガイモの芽や緑色の部分が有毒なのは知っているだろうか。ジャガイモの芽や緑色の部分は、ソラニンなどの有害物質を含んでおり、食中毒を引き起こす。そんなジャガイモを「青くなった」という。人間は、失敗し、その反省を生かすことで

より良い生活を手に入れてきた。これらの「青くなった」ジャガイモを食べ、失敗した人は星の数ほどいるだろう。その人たちの反省が、他の人々に共有されたことで、青い食べ物を危険と感じるようになったのだと考えられる。

つまり、青色のもつ心理的効果や青い食べ物は危険だという共通の認識により、料理に使いづらくなり、青色の料理が少ないのだ。

だが反対に、青色の効果を上手く利用することによって、料理をよりおいしそうに見せることもできる。例えば、大人気のアイス『ガリガリ君・ソーダ味』から連想してみよう。青色は「爽快感」や「冷たい」といったイメージをもっている。その効果によって、ソーダの爽快感やアイスの冷たさを強調でき、よりおいしそうに見せることができるのだ。さらに、青色の「食欲を抑える効果」は、ダイエットに最適である。実際に、色によって食欲をコントロールするダイエット方法があり、特に青色を中心に利用する、「青色ダイエット」が存在する。

だから、青色の効果を上手く利用できれば、料理に新たな彩を加えることができる。その彩りは、社会の話題や興味を誘い、私たちの生活を豊かにしてくれるだろう。

このように、色と料理には深く関係がある。青色と料理も深く関わっていて、青色の利用の仕方次第で、印象ががらりと変わる。組み合わせによっては、食欲を増幅させたり、反対に減退させたりすることもできる。

つまり、色は料理を変身させる魔法なのだ。

講評

何のことだと思わせる題名です。「魔法」という謎かけも効果的でした。料理には青色が少ない理由、食欲へのマイナス効果と青色は危険という知識によるという説明から始めて、逆に「爽快感」の効果も指摘し、最後には「青色ダイエット」などのダイエット効果に論究しています。プラスマイナスの両面について適切に論述しており、気負いや無理を感じさせない小論文になっています。中学生らしい問題意識から論が十分に展開されていました。

優秀賞（B分野）

音楽の秘めたる力

亀岡市立南桑中学校 三年

水原 颯太

音楽は、今や私たちの生活の一部として、なくてはならないものになっている。学校のチャイムや時報、テレビやゲームのBGMなど様々な場面で使用され、音楽を耳にしない日は無い。音楽は私たちの生活と密接に関わっているのだ。

そのような音楽だが、実は、メジャーなものからマイナーなものまで、様々な「力」をもっている。その力は、中学校でも大いに生かせるのではないだろうか。

まずは、リラククス効果だ。音楽を聴くと心が落ち着く、集中できるなどという人は多いのではないだろうか。音楽を聴くことで脳内ではα派が発生し、リラククス状態にしてくれる。また、幸福感をもたらすホ

ルモンが分泌されることで自律神経が整い、より一層安らぎを感じることもできる。睡眠前に曲を聴くと寝付きを良くし、睡眠の質を上げる効果もあるそうだ。効果が現れるかどうかは聴く音楽次第で、クラシックやヒーリングミュージックなどがより効果を出しやすいとされる。

学校でも、受験前やテスト前などのイライラしやすい時期に、ヒーリングミュージックを聴く時間をとってみてはどうだろうか。心身が安定して不要な衝突が減り、日々の学校生活がより快適になるのではないかと。また、音楽のもつ無意識に作用する力も活用できる。とある研究結果によると、店舗で流す曲によって歩く速度や、注目するものが変わり、客の購買意欲を促進できるというのだ。しかも、驚くことに、客側はこの事実には全く気付いておらず、音楽によって、店は無意識下で客の行動をコントロールしていた。つまり、音楽は、他人の行動を変える力さえも持っているのである。

この効果を上手く利用すれば、学校生活がより快適に過ごせるのではないだろうか。例えば、行事でアップテンポのBGMを流すことで場を盛り上げ、みんなの気持ちを一つにまとめるなど、それぞれ目的に応じて音楽をうまく使い分けることで、より活動がしやすくなるのだ。

さらに驚くことに、音楽には、私たちの病気を治癒してくれる可能性がある。「音楽療法」といって、音楽を用いて心身の疾患を回復させることができるのだ。鬱や癌、不眠症、統合失調症などの様々な疾患に効果が期待されている。現在学校では、勉強や定期テスト、部活、行事の準備などでストレスを抱えている人も多い。疲れた心を癒すために、場合によっては授業や休み時間に音楽を取り入れてみるのもいいだろう。

このように、音楽には私たちの感情や行動、健康状態を変えることができる力がある。生活と切っても切り離せない音楽。その音楽を学校でさらに活用することができれば、私たちの人生をより豊かにできるのではないだろうか。

講評

このテーマは毎年登場してくる論題です。音楽の効果について書かれることが多いのですが、この文章も最初は特に目新しさを感じませんでした。ところが、読後の爽やかさはこれまでものとは大きく異なっていました。いくつかの音楽の効果を上げながら、それを自分の生活、学校生活に生かそうとする提案に満ちていました。主張、提案型の小論文とはこのような姿勢で書かれるべきものだという点を改めて教えられた思いでした。好感度抜群の文章でした。

優秀賞（B分野）

けんかのはらひ方

福知山市立桃映中学校 三年

森本 珠希

私たちは幼少期から友達や兄弟、親と多くのけんかをして育ってきた。だが、けんかと聞くと、どんなイメージをもつだろうか。今までの経験上なるべく避けて通りたいと思う人も多いだろう。だが、保育士さんは幼児のけんかを暴力的なもの以外は見守るといふ。幼児のけんかには良いことがあるぞつた。

なぜ幼少期のうちにけんかをするのは良いことなのだろうか。

私は幼少期にけんかをするのが人と人の触れ合いになっっているからだと考える。

例えばけんかが起き、勝ちたいとき、相手に自分の意見の正当性をい

かにわかりやすく伝えるかが重要だ。そこでまず自分の中で主張をまとめ、主張の根拠となる事実をまとめる。そして、けんかに勝利するためには相手に受け入れてもらえる筋の通った主張が必要となる。

このことから、けんかをする事によって論理的に考える力が養われ、その文章の方が受け入れてもらいやすいということを学ぶことができる。この力は将来、仕事でプレゼンテーションをするときや普段の日常生活の会話でも必要になってくる。論理的に考えられることは、自分が相手にわかりやすく話せるだけでなく、相手の意見もわかりやすく解釈することができるのだ。

一方でけんかをする事は、相手に対して攻撃的になることから発達に悪影響なのではないかという意見もあるだろう。

だが、幼少期にけんかをする事で社会性が身につくと考ええる。私は家庭科の授業で幼児の社会性の発達は周りの人との触れ合いが重要だということを読んだ。人やものと関わり、たくさん経験をする中で、あらゆる感情を体験し、自分の気持ちを表す言葉を覚えていくことが幼少期には大切だ。幼児のけんかは自分の気持ちごとすれば相手に伝わるか、どうすると伝わりにくいかわかることができる機会となる。そうして相手の意見を聞き相互で納得できる解決策を出す練習になる。また、けんかを通して仲直りの仕方や、時には我慢をするという事も学ぶことができるのだ。幼少期にこういった「けんか」をすることに自分の気持ちを伝えること、人の意見を知ることができ視野が広がっていくことにつながる。

つまり、幼少期にけんかをする事、自分の思いをわかりやすく言葉にする力や社会性が身につく絶好の機会となる。

このように幼少期にけんかをする事はメリットも多い。今私たちが日常生活で会話をしたり、文章を書いたりすることができているのは、実は幼少期にしたけんかのおかげかもしれない。けんかについてはマイ

ナスなイメージも多いかもしれないが、今一度けんかが秘めている可能性を考えてみてほしい。

講評

これも一体何だという題名です。反道徳的ですよ。しかし、これは保育の話なのでした。最近教育学研究の世界で話題になることが多い非認知能力、感情、情緒の発達について、幼少期段階に着目して論を展開しています。保育士さんの話も出されており、職場体験的なことも関係しているかと思われました。けんかから論理的思考力が育つこと、社会性が養われることなどの優れた発見、知見が見出されています。わくわくしながら読ませてもらった知的探究的な小論文でした。

優秀賞（C分野）

惹きつけられる発表

亀岡市立南桑中学校 三年

並河 千聖

皆さんはたくさんの方の前で発表する時、人を惹きつけ、記憶に残るようなものにするにはどうするだろうか。

昨年、校外学習のまとめをプレゼンテーションで作り、発表する授業があった。だが、その時私が作ったものより、他の人の作ったものの方が分かりやすく、記憶に残るものだった。そこで私は、人を惹きつける発表とはどのようなものか考えてみることにした。

まず、なぜ私のものは惹きつけられなかったのか、上手な人と比べて考えてみた。私が参考に比べてみたのは、プレゼンの天才と名高いスティーブ・ジョブズという人物だ。そこで、インターネットで和訳された彼のプレゼンを見てみた。私のプレゼンとはかけ離れており、圧倒された。私と彼の違いは山ほどあったが、特に際立って見えた二つの違いがある。

一つ目は、スライドの作り方だ。私はスライドを見て説明できるように、箇条書きでスライドを文字で埋めていた。しかし、彼はシンプルに文字と絵だけで説明していた。それでも私の文字だけのものより、格段に記憶に残った。調べてみると、これは「画像優位性効果」というものが、用いられているかららしい。これは、ジョン・メディナ氏の実験から、文字と言葉だけのプレゼンより絵を用いたプレゼンの方が記憶効率が良いと発見されたものである。言葉と文字だけのプレゼンは七十二時間後、その内の約十%しか記憶に残らないが、絵を用いたプレゼンは約六五%が記憶に残るといのである。よって、スティーブ・ジョブズのプレゼンはとてもよく記憶に残ったのだ。

二つ目は、話すときの感情だ。私は、スライドを見ながら、準備した事を淡々と説明していた。だが、彼は聞き手の方を向きながら、商品を買いたくなるような説明をしていた。なぜ彼の説明はここまで引き込まれるのか。調べてみるとこれにも理由があった。彼のプレゼンでは「情感感染」ということが起きているらしい。これは、他者の強い感情を感じ取り、周囲の人も同じ感情になることだ。彼の商品に対する思い入れは人一倍強く、自信がどんどん伝わってきた。よって、聞き手に商品を買いたいと思わせることができたのだ。

世界的に有名なプレゼン巧者であるスティーブ・ジョブズと、私たちを比べるのは、現実的ではない、という意見をもつ人もいるかもしれない。しかし、私たち中学生年代が、意図的に質の高いプレゼンに触れ、

取捨選択をしながら自身の実践に取り入れていくことが成長につながるのではないだろうか。

このように、人を惹きつける発表には、理由があったのだ。私も次の発表機会ではジョブズのような効果を使い、たくさんの人を惹き込めるようなものになりたい。皆さんもこの二つの効果を上手く活用し、たくさんの人を惹きつけられる発表をしてみてください。

講評

学習発表などのプレゼンテーションを扱った文章です。プレゼンの分かりやすさ、記憶の残りやすさを追求しています。校外学習のプレゼンテーションにおける自分とクラスメイトのものを比較し、差があることを自覚したところから追求を始めました。模範例としてステイブ・ジョブズのプレゼンを分析し、「画像優位性効果」と「情動感染」という二つの効果を挙げて、自分との違いを見出しました。丁寧な分析が印象に残った小論文でした。

優秀賞（C分野）

「普通」を見つめ直して

亀岡市立育親学園 八年

秦 小羽音

母が「普通」という言葉を使うことに対して自分が「普通ではない」と言われているようで違和感と嫌悪感を抱いたことがある。「普通」という言葉は割と頻繁に使われている言葉であるのに、なぜこのような感情を抱いてしまうのか。この違和感・嫌悪感をもつに至った原因を、「一般（的）」という「普通」とよく似た意味で使われる言葉との比較から考えてみたい。

まずこの二つの言葉の意味を辞書をもとに定義する。「一般（的）」という言葉の意味は『特別な物事に限らないで、広く全体に通じる状態であるさま。全体の多数派で、少数派あつて成り立つもの』また、「普通」は『どこにもあるようなありふれたものであること。他と特に異なる性質をもつてはいないさま』とあった。

次に、「普通」と「一般（的）」の言葉の使用例をもとに考えてみる。公共の施設などで「一般の方はここから入場できます」といった張り紙を目にすることがあるが、ここで使用されている「一般」という言葉を「普通」という言葉に置き換えてみるとは不可能だ。なぜなら、「普通」という言葉に置き換えた途端に、この張り紙は、「普通」という言葉の意味に含まれる『他と特に異なる性質をもつてはいないさま』という部分が差別的なニュアンス、マイナスイメージをもって伝わってしまうからだ。しかし「ここでの支払方法は一般的に現金です」や「一般的に日本の建物は低く」、「一般的にメロンは値段が高く」などといった使われ方

をされている場合はどうだろう。少数派にむしろ希少価値があるようなプラス思考な捉え方がされるのではないだろうか。

このようなことから、「一般(的)」という言葉には、大多数と少数の比較の意味合いが強く、少数派はよい意味での「特殊」。一方、「普通」のほうは言葉の意味の中に「正常」と「異常」の対比が隠れていて、使われ方によって「違和感」や「嫌悪感」をもつことがあるのだと思う。私が、最初に感じた違和感の正体はここにあるように思う。

現代社会においては、ニューズなどを通して障害のある人や、性的マイノリティーといった少数派に属する人たちが、偏見や差別によって、苦労される場面に遭遇することがある。その根底には「普通」であることが前提の社会があるからだと思う。私が「普通」という言葉に感じた違和感・嫌悪感は、性別や国籍、見た目等で判断するのではなく、個としての「私」を理解してほしいという思いの表れであったのだ。「普通」という言葉は便利だ。しかし、その言葉に含まれる意味を理解し、少数派であることが実は、あなたらしさの表れなのだこの思いを込めて使用されるべきだと思う。

講評

この文章も含めて、「絶対」や「正解」という身近な概念について再検討を試みたのが今回の特徴でした。どこからテーマを借りてくるのではなく、自分の実感を元に論を深め、展開していくものです。ここでは「普通」という言葉の使い方から語義、語感へと考察を広げます。そして、「普通」は、類義語の「一般的」に比べて、使い手に違和感、嫌悪感を生むし、時には差別にまで至ることを指摘しています。鋭い感覚に基づいた小論文でした。

優秀賞 (C分野)

恋の魔法

京丹波町立蒲生野中学校 三年

村瀬 花春

「恋」「愛」「恋愛」...このような言葉は、誰しも一度は耳にしたことがあると思う。辞典によると、「男女が慕い合う気持ち」や「男女の間で相手を特別に好きになる気持ち」といった意味をもつということが分かった。私は、恋をすると気分が良好になり物事を前向きに捉えることができるのではないかと思い、それはなぜなのかという疑問を抱いた。

まず私が恋をした場合、毎日が生き生きとする。他の誰とも違う、その人への特別な何かを感じるからだ。好きな人に出会ったり話したり、一緒に遊ぶことができたらとても嬉しいと感じるだろう。私の友人に尋ねた場合も、同じような意見が返ってきた。私の周りにいる、恋をしている人も、恋をしていなかった時より笑顔になり明るくなったように感じる。それはなぜかと考えた時、恋をすると相手からも好かれようと努力するからだと考えた。まず、外見は清潔感や身だしなみに気をつけるようになる。内面では、常に笑顔で人に接しようとしていたり、気遣いができるようになる。今までの経験から感じる。よって、自分に自信をもち生活できるようになり、前向きな気持ちになるのだと思う。

しかしこのような意見もあった。「恋をすることで物事をマイナスに考え、ネガティブな気持ちになることがある」といった意見だ。確かにこのような気持ちになることもあるだろう。実際、私や私の友人も恋に悩み、落ち込んでいる様子を目にしたことがある。自分にとって好きな人というのは、遠く、輝いている存在として目に映るものだ。そのため

「自分なんか好きな人とつり合はずがない」といった思考になるのだろう。ただ、好きという感情のすごい所は、好きな人と親しくなりたいという思いが努力へとつながる点だ。それが自信へと変わり、そしてその自信が前向きな気持ちへとつながっていくのだ。

結論を言うと、恋のもつ力とは、「相手に好かれようと自分磨きをする」と「だ。恋をすると、自分の心の中の言葉では表現することのできない感情が生まれる。その感情が生まれることによって、自分磨きもするようになり、自分を前向きにさせてくれると私は考える。恋にはそのよつな力があるのだ。

恋愛対象は異性だけではない。同性や二次元のキャラクターなどに恋をする人もいる。しかし恋愛対象は違えど、恋をする人の気持ちは皆同じだ。その人のことを特別に想い、好かれるために努力する。その努力する姿はとも素晴らしいものだ。努力して変化した自分に堂々と自信をもって過ごしたら良いのだ。恋をすると人は生き生きとし、輝いて見える。人は恋をすると努力を積み重ねて変わろうとする。そして心も晴れてゆく。恋をすると心が幸せで満たされるのだ。

恋により人が努力し輝く。それは恋による「魔法」なのだ。

講評

冒頭に「恋をすると気分が良好に物事を前向きに捉えることができるのではないか」という仮説を論題として示した論理的な文章です。論の構成として、恋の心理のプラス面、マイナス面の両方を取り上げており、丁寧さも感じました。用語として「笑顔」「清潔感」「身だしなみ」「自信」などの肯定的な語が多く用されているのも特徴でした。最終的に「自分磨き」をするようになるという「恋の魔法」だという結論があり、題名の付け方も含めて、なるほどと感心した次第でした。

▼文集作品の部 総評

最優秀賞

綾部市立八田中学校

三年生12編の応募でした。A分野5編、B分野1編、C分野6編の構成です。「鉄道の新たな価値」、「私たちと共に生きる文字」、「対話からつながる未来」、「夢に近づく第一歩」のように未来志向の作品が多かったこと、また「好きを見つめる」、「思いを託す」、「ありのまま」、「あたりまえ」のように身近な発見から論題を立てて論じていて無理がないことが特徴になっていました。質的に一定レベル以上の作品をそろえている点が優れていました。これが最優秀賞と評価した最大の理由です。昨年度も優秀賞を受賞しており、本年度も期待しておりましたが、期待以上の結果となりました。

優秀賞

京田辺市立田辺中学校

田辺中学校は学校文集賞の常連となっています。二年生をみの12編の応募でした。A分野5編、B分野5編、C分野2編の構成でした。「漢字はなぜ必要か」、「思いがけず発した一言」、「かけ声も一つのプレー」、「背が低くてもバスケットボールで活躍できる」、「刺繍から考える人付き合い」のように意外性のあるテーマが目につきました。二年生らしいといったら決め付けになりそうですが、ちょうど中学生生活の真ん中で考えそうな論題に思えました。等身大の文章という点で好感がもてました。

木津川市立木津第二中学校

三年生11編、二年生6編の計17編の応募でした。A分野8編、B分野5編、C分野4編のバランスの良い構成でした。「私達が歴史を学ぶ意味」、「古から続く生き物の習性」、「英語を学ぶ意味」、「音楽の感情」、「音楽がもたらす力」、「日本の文化と掃除」のように学校の授業や活動から発想したと思われる作品が目を惹きました。また「私、ぼく、ウチ、あつし」のように一人称の呼称について論じたものや、「人はなぜ嘘をつくのか」のように人間の本質の一部を扱った文章もありました。多様性が豊かな文集という印象でした。

京丹波町立蒲生野中学校

三年生13編の応募でした。A分野6編、B分野4編、C分野3編というバランスの取れた構成でした。「A」との共存、「食」という文化、「LGBTQ+とLGBT言葉は必要か」のように最先端の問題を扱ったも



のが一定数見られ、社会問題への関心の高さをうかがわせました。文集から「人類の進化」、「恋の魔法」の2編が個人賞を受賞していました。力のある作品が一定水準以上の他の作品をより引っ張っている印象の文集となっていました。

綾部市立綾部中学校

三年生3編、二年生4編の計7編の応募でした。A分野2編、B分野2編、C分野3編で構成されていました。「見える色」、「他国にない日本の素晴らしさ」、「僕だけの世界」、「男女で分ける育児休暇」、「応援歌の効果」のようにテーマに多様性が見られたのが大きな特徴でした。視覚障害、育児休暇などの社会問題を扱ったものや、国際比較で得られた見解についての文章など、難題に正面から取り組んだことも評価できる文集という印象でした。

小論文はどつ受けとめられるか 作品を審査する眼

京都教育大学 植山 俊宏

みなさんは、この小論文グランプリに応募するために、どついうことを考えながら小論文を書いたのでしょうか。材料集め、問題、テーマの設定、下書き、結論の導きだしなどの手順、作業、労力というものがあつたことでしょうか。またクラスメートや先生方にアドバイスをもらいながら文章を仕上げることもあつたかもしれません。さまざまな手間をかけた多くの時間を使って小論文を仕上げたことは、読ませてもらったときにすぐ分かりました。大変なご苦労の結果、仕上げられた小論文であつたことに私は敬服しました。

では、どのような点に注目しながら私が皆さんの小論文を読んでいたか。

一言で言う私の胸に書き手、筆者の主張、考えが届いてきたかです。小論文ですから、届けるべきものは、書き手、筆者の主張、考えです。それも明快に一つのテーマ（問題）について考えた結果、こついうことを述べるといふ主張、考えがはっきりしていることが必要です。そして、その主張を強く支えるための根拠・理由の確かな提示も大切です。私とつ読者は、それを文章から受け取るために読むのですから。

この小論文が読み手、読者の胸に届くといふことはどついうことか。まず価値のあること、今必要なことを述べていることが大切です。

みなさんの周りにはさまざまな環境があり、いろいろな出来事が起きています。身の回りはもちろん、マスメディアを通して伝わってくる出来事もあります。それをタイムリーに取り上げている小論文も多く見られました。

また、日々の学びの中から、教科の学習の中で本当に深く学び得たこ

とを自分の考えや主張にして文章という形にしているものもたくさんありました。

それ以外にも、毎日の生活の中で疑問に思つたことや、学校生活の中で起きた問題などを論題にしている作品も一定の数見られました。

どれも自分の主張や考えを他者、他の人に届けたいという思いに溢れていました。しかし、届き方には違いがありました。

例えば、次のようなタイプのものがありました。

○思いはあるけれど、それが考えのまとまりまで深まっていないもの

○逆にうまく文章にはなっているけれども、主張や考えがこれまでで言われてきたことあまり変わらないもの

○主張や考えはある程度伝わるが、それがうまく言葉、表現に表し切れていないもの

○思いや考えが強すぎて、他の考えや他の立場の人を寄せつけないようになっているもの

○主張は明快だが、それを支える根拠や理由が明確に、論理的に述べられていないもの

細かく分けていけば、十人十色、百人百様の姿がありました。文章といふものはおもしろいもので、六〇〇編を超える作品を読んでも同じもの、そつくりなものも出てこないのです。当たり前です。一人一人の中学生が自分の主張、考えを書いているのですから、みなさんの周りの友だちにそつくりな考えを持つ人がいないことと同じように、同じ文章を書く人はいないのです。

さて、ではどこに重点を置いて、みなさんの小論文を読んでいたかです。胸に届く届き方といふことだけを言いますと、主観的に、私といふ読み手の好みに左右されると受け取られるでしょう。ですから、その胸に届く届き方を丁寧に分析しながら読んでいきました。

小論文ですから、主張、考えの明確さ、その価値の高さが重要です。

これは大きな基準です。しかし、それが突然出てくるのは困ります。大事に思わない事実や出来事、経験、資料などを列ねながら、最後に突然重要な主張が行われたり、大事な考えが述べられたりしても、あまり効果がありません。

胸に届けるということは、一歩進めるとその届けた人の胸に響かせることであり、なるほどそうか、こんな考えもあるのかと感じ入らせることです。

これを書き手と読み手の関係で説明してみます。書き手は読み手に対して「説得」をします。この「説得」は、普通に使う日本語とは少し意味が異なります。ただ単に相手に説明をするのではなく、自分の考えを分かってもらい、賛成してもらおうという働きかけの意味です。

今度は、読み手から書き手という方向を考えます。文章を読んで内容を分かつとします。例えばみなさんが自宅で家族同士書いたりするメモの場合は、「これから〇〇さんの家に遊びに行きます。帰宅は〇〇時です。」で内容は理解できますし、目的も達します。ところが小論文は単なる伝え合いではありません。書いてあることが理解できて、その上で「なるほどそうだ」と捉えることが大事なのです。これを「理解」をより一歩進めた、もう少し深めた形で「納得」と呼ぶとしましょう。そうすると、小論文を書くことが「説得」で、読むことが「納得」であるという両者の関係が見えてきます。

この「説得」の質が高いことが小論文の優秀さになることとなります。単にこれこれの条件が揃っているから、「説得」の質が高い、つまりレベルが高いということにはなりません。読み手に読んでもらう、「納得」をもたらしたときに初めてその小論文は優秀だといえるのです。

小論文を審査するときは、読み手として、どの程度「納得」できるか、どのくらい「納得」できるか、「納得」できないところはどこか、を見極めなければなりません。審査では、結論として出された主張や考えに

加えて、それを導き出していく手順や方法、事実、経験、情報、資料の使い方の適切さを丁寧に見ていくこととなります。「論証」という堅い言い方をするところがあるのですが、言葉を使って証明する、少し柔らかくいえばなるほどと思わせるすじみち立てを明確に示す。この「論証」「すじみち立て」が不自然でなくつながっていると、どんな主張、考えを結論として導いてくれるのだろうかと期待が湧きます。読み手としてうまく「納得」させられるといい気持ちになります。「論証」と「納得」という言葉をキーワードにして自分の作品を読み直し、書き直したり、友だちの作品についてアドバイスをしたりということにも取り組んでほしいと考えています。

小論文は、まず自分自身を「納得」させるために書きます。そのためには、実は、多くの他者、読み手を「納得」させることが必要です。自分以外の経験や考えをもつ他者を「納得」させるための材料、論理展開、結論、用語を的確に用いることができれば、効果的な、質の高い小論文を書くことになるのです。そして、それは最後に自分に戻ってきて、このようなことを論じ、結論を導き出せる自分であったかということを見出すことにつながります。

社会に出て、文章を書き、論じて、読み手を「納得」させる力をもつこと、高めることは、たいへん難しいことと感ずるかもしれません。しかし、それは目の前の階段を一段ずつ上がっていけば、必ず次の階へ達することができるように、身近なところに問題を発見し、論じ、結論を導く習練を積んでいけば難しいことではないのです。自分と他者とが分かり合い、納得し合うことから始めて、自分と社会との関係を作っていくために小論文を有効に活用していただきたいと思います。「胸に響く」とは「納得し合う」ということなのです。

小論文を書くための手引き

一、小論文とは —人はなぜすじみちを立てて書くのか—

自分をはっきりと捉え、鏡に映してすじみちを明確にする

「学びの小論文」を書く行為には、自分自身を捉え直すための機会、作業という意味があります。この自分を捉えることに挑戦することは、中学生の時期にはとても大切なことです。自分の将来、進路、得意分野、適性というものは曖昧に感じるものです。そして、しばしばこんな将来を描いていいのだろうか、本当にこの分野が得意なのだろうか、こんな仕事は向いているのだろうかなど、さまざまに悩む時期が中学生の時期です。どうしてもマイナスに考えがちになったり、時として楽観的になったり、それらが日々入れ替わりに現れたりします。しかし、そこには、すじみちがなかったり、材料や根拠を整えて考えなかったりということがよくあります。「学びの小論文」は、その悩む自分にすじみちを明確にする、材料や根拠を的確に揃えるということを求めてきます。答えを出すように働きかけてきます。

自分の考えや気付きを鏡に映すいくつかの方法

「学びの小論文」を書く行為を通して、自分の考えや気付きをきちんと鏡に映す方法を習得していきます。鏡に映す方法にはいくつかあります。

まず、なんとなくつかみかけた考えや気付きを鮮明にしていく方法があります。つかんだ考えや気付きを元にそこにたどりつくまでのみちすじを整理したり、考えや気付きをもたらした根拠や理由を考えたりすることで、自分の考えや気付きははっきりと姿や形を現してきます。鏡に映ったほんやりとした考えや気付きを明確にする、そこにみちすじを与える、なぜ映っているかの理由や根拠を考えることは自分で自分を納得

させる方法です。

次に、鏡に映る考えや気付きの数を増やして、比べていく方法があります。複数の鏡を用意し、そこに必要なくつかの考えや気付きを映し、比べていくことで自分の考えや気付きの価値や意義を明確に、深く捉えていく方法です。よく使われることが、正反対の考えや距離の遠い考えを捉え、その長所や短所をクリアにして、自分の考えや気付きと比べる方法です。そうすると、自分の考えや気付きの長所や短所が明確に把握できるようになります。

さらに、今の姿や形だけでなく、想像や推論を通して将来の姿や形を鏡に映すことで、今の自分の考えや気付きによって捉えているものや足りないものを見る方法もあります。中学生の時期から本格的な想像や推論ができるようになりますから、それを用いて、自分や社会や国の将来像を描き出すのです。かなり高度な方法ですが、考えることから社会への参加をめざしていくという、重要な能力を身に付けていくことができます。

また、強い思いや情熱を鏡に映し、その姿や形を明らかにすることで、その底に流れている自分の考えや気付きのみちすじを浮かび上がらせる方法もあります。書くという行為は、話すという行為に比べて、必要なことを漏らさず書くことや順序正しく書き進めること、言い過ぎや言い足りなさに注意することなどが求められるので、冷静さが要求されます。その冷静さが自分の思いや情熱をすじみち立った考えに整えていくのです。

二、小論文を書くための注意点

一一〇〇字の意味—「説得」のために必要な分量—

日本語の文章で自分の考えや気付きを論理的に記述するためには、最低八〇〇字が必要だと言われています。読み手にすじみち立っている内

容だと受け取ってもらうためには一定の分量が必要です。しかし、八〇〇字では、身近な題材しか取り上げられません。小学生なら行動や生活の範囲が狭いのでそれでいいのですが、より高度なことを学習する中学生だとこの分量では「学んだこと」の情報を十分に盛り込めないし、すじみち立てて書くことができません。どうしても二二〇〇字程度が必要になってきます。この分量は、成人でも目安となります。気付いたこと、学んだことを表すのは、中学生と大きな差がないからです。もちろん、職業の内容によっては、異なってくるかもしれませんが、日頃の生活や行動を元に自分の考えを述べるには、とりあえず二二〇〇字程度までで十分といえます。

読み手の反応こそが小論文を書くこと価値

小論文を書いて、自分の考えや気付きを読み手に働きかけ、その反応や感想をもらうことは、気が引けるし、少し恐ろしい気もします。しかし、小論文を書くことで他の人の反応や感想が引き出せるのなら、勇気を出して、その働きを活用し、自分のものにしていかない手はありません。小論文は、自分を高めて、伸ばしていく確実で最も有効な方法の一つです。腹を決めて、読んでもらうことを期待して小論文を書くことが大事です。

三、自分の「今」の考えや気付きが分かる小論文

迷いながら自分の「今」の考えを的確に述べる

人はみな「今」を生きていきます。しかし、思っているほど「今の自分」は、分らないし、捉えられません。小論文という方法は、その書き手の「今の価値、到達点」を示してくれます。小論文を書く際には、精一杯に自分の考えや気付きを見つめます。そして、それを的確に書いていくときには、手間がかかったり、材料に困ったりします。どう判断

すればいいかにも迷います。ですが、それだけ迷い、困った分だけ自分が捉えられるのです。確実に書き手の苦勞に報いてくれるのが小論文です。その利益は、実は、第一に書き手に生まれてくるのです。

「学び」の中から小論文のテーマを見出すという意味

中学生は、三年間さまざまなことに目を向け、多くのことを学んでいきます。その中で特に日々の学びの中からテーマを捉えて、小論文を論述することには、どのような意味があるのでしょうか。

教科の学習や行事には、明確な目的をもって、すべての中学生が取り組みます。その学びには、緊張感や真剣さがあります。それを捉え直し、文章にすることは、「学び」から深く、広い考えを作り上げることにつながります。

中学生は、毎日毎日大事なことを学んでいます。学んだことをノートに書いたり、グループで話し合ったりしています。あるいは、運動したり、創作をしたりしています。その学びの瞬間はまことに貴重なものですが、ほつっておけば、その場限りとなります。それをまとめて、自分にとってその学びがどれほど大事か、その学びのためにどれほど考えたかについては、どこかでまとめてみないと具休像は捉えにくいのです。小論文は、日々の学びに「形」を与えることでもあるのです。そのため、手間や暇をかけて小論文を書くという活動に取り組むことは重要です。思いがけない学び、意外な自分の価値を発見するために取り組んでもらいたいのです。

四、小論文が拓いていくこれからの自分、これからの道

未来志向を確実にしてくれる小論文

中学生にとって進路は最も重要な意味をもちます。進路の選択は誰しも迷つところでは、自分に何が向いているか、自分に適したものは何か、

自分に何ができるかなど、さまざまに迷います。小論文を書くことがその迷いを解決するわけではありませんが、少なくとも出発点になる「今の自分」の姿を明確にしてくれます。特に小論文の場合、自分の気付いたこと、考えたことの価値をきちんと見定めることを目的としますから、自己の肯定、自分の積極的評価が行われます。「今の自分」を認めるためにすじみち立てて自分の気付きや考えを書き綴り、他の人が「納得」してくれるように工夫する営みは、最初に自分を「納得」させてくれます。

学んだ機会を活かし、自分を深める小論文

中学校の教科は、九教科あり、その中にはさまざまな学びがあります。その中で思いがけない、考えていなかった学びの出会いをすることがあります。特に実技を中心とする教科では、自分が出会ったことや実際にやってみたことでつかみとるものがあります。教科には好き嫌いがあるかもしれませんが、しかし、それを越えて、まず出会った自分を捉える、学んだことの衝撃やインパクトの強さを考えることです。中学生には人生の他の時期にはない感性の鋭さがあります。小論文は、その衝撃やインパクトをそのままに終わらせないために書くという一面があります。なぜ、自分はそう感じたのか、そのように感じたことは社会でどんな意味をもつのか。それを考え、すじみち立てて書き表していくことで自分の感性に自信が湧きますし、それを社会で活かす見通しも持てます。

五、小論文の書き方

①日々の学びを見つめ直す

中学校の日々の学びをつかむためにはどうすればいいのでしょうか。答えは、「記録」。学んだことの記録を取って、積み重ねていきます。多くの教科ではノートを取っていますが、学んだことをまとめるためには別の「記録」の取り方が必要です。あらゆる教科、活動、行事などで一

区切りごとに短いメモを作ります。二〇〇字程度を目安に。二〇〇字は、だいたい五〜七文です。半分は、学習の事実を簡単にまとめます。残り半分は、そこから考えたことをメモしておきます。それをファイルに綴じて加えていきます。一年経つといろいろな学習の中で自分がしたこと、見てきたこと、気づいたこと、考えたことのメモがたまります。

②「もやもや」したテーマを引っ張り出す

そこから書けそうな「テーマ」を取り出していくのです。最初は、漠然とした、もやもやしたものでかまいません。入賞作品を見てください。すべてが「もやもや」から出発し、それを鮮明にして、追究しています。そして、その「もやもや」を考えているうちに、解決するために必要な情報を思いつき、集めていっています。

これらの二〇〇字メモ（と仮に呼んでおきましょう）の中には、「もやもや」と同時にそれを解決するための「情報」、そして「方法」がたくさん貯えられているはず。自分自身だけでは十分に目配りができないときには、そのメモを友だちと見せ合って、アイデアを付け加えてもらいましょう。自分からも友だちのメモに付け加えてあげましょう。

③材料集め・情報収集を行う（調べることを加える）

「もやもや」が少し形になったものが、取り組みたい「テーマ」です。課題と言ってもよいでしょう。このことなら自分の意見が言えるかもしれない、ある程度の答えが示せるかもしれない、というテーマにします。次には、そのための材料集めです。情報を収集します。その問題が出てきた授業や活動、行事を思い起こして、たくさんのお話をメモしていきます。使えるか使えないかは考えません。数は多い方がいいのです。たくさんのお話が出てきたら、その次に使いたい情報、使えそうな情報を分類していきます。★印とか、◎印などを使って、文章の中に書き

たいことを探します。ある程度まとまって論ができそうになったら、反論を予想して、そのこともメモとして書き加えておきます。

④集まった情報を分類し、整理する(取り上げるもの、捨てるもの)

その次は、選択、絞り込みです。マッピングという方法を用いてもいいでしょう。大事だと思われる情報を紙の真ん中に書き、囲みます。そこから線を引いて、関連しそうな情報を付け加え、それも囲みます。真ん中に大きな〇があり、そのまわりに〇が増えていきます。そうしていくうちに、使えそうな情報やすじみち(論理)が区別されます。

この辺りで自分の問題意識は明確になっているはずですが、このことを書きたいという書き出しと中心が固まってきました。ここでも何について論じたいのかを二〜五行程度でいいから書いてみます。

⑤構想図・構想メモ・設計図を作る

次には、構想図・構想メモを書きましよう。始め・中・終わりにもって来れそうな情報を配置します。横長の長方形を縦線で三つに分けた「中」の部分をもく取る(も)を用意し、その中に箇条書きで書きたいことを入れていきます。埋まった後、順序を確かめて、必要があれば、入れ替えも行います。これでおおよその設計図の完成です。

では、結論はどうすればいいのか。最初に、だいたいの結論になりそうなることをメモしておきます。最初からはっきりした結論がなくとも焦る必要はありません。「中」まで書き終わったときに、何度か読み直して、結論を出していけばよいのです。

⑥まず書く(試作品を作る)

作品として書くことは、最低二回は書くことだということを心に決めてください。手間がかかっても、二回は書くこと、そこに今まで気付か

かった自分の考えが浮き出てきます。それが「小論文で考えが磨かれる」ということです。書きっぱなしの作品はよい作品になりません。

最初の作品では、自分で納得できる表現がなかなか見つかりません。それでもとりあえず、書き進め、書き終わらしましょう。最初の作品は、試作品です。それを改良することに意味があります。

題名は、最初の作品の時は、仮の題名だと考えておきます。うまく付けれないときは、「〇〇について」とします。しかし、「〇〇について」は、題名として最もよくないものの一つなので、そのまま使わないことです。

⑦試作品を改良する・推敲—自分の力と仲間・友だちの力—

できあがった試作品を、自分の力で推敲をする。誤字や脱字などに気を付けます。声に出して読むとつながりのよさ、悪さに気がきます。次は、友だちと互いの作品を読み合って、アドバイスをし合います。考えの進め方が飛躍しているところ、より適切な表現、例や経験についての記述の過不足など、できるだけたくさん出してもらいます。しかし、それはあくまで参考です。どう書き直すかは自分で決めます。自分が他の人の作品の読み手になったときも、その人のためにアドバイスをしあげましょう。

段落分けについてです。過去入賞作品の段落数の平均は八段落弱です。一段落あたりの字数は約一九〇字です。読みやすさ、伝わりやすさの一つの目安になります。段落数が極端に少ないと一段落あたりの情報量が多くなって、読み手は読みにくいのです。迷ったときは思い切って段落を分けることを心がけましょう。

ただ、段落数は、文章の内容によって異なります。経験や事例、事実を多く使う文章は段落が多くなります。また一つのテーマを深く論述していくタイプは比較的段落は少なくなります。自分の文章のタイプをと

らえて、段落数を調節することも読みやすい文章を書く工夫の一つです。

⑧ 完成品を書く

アドバイスを活かし、作品を書き直します。意外なほど自分の考えの深まりが実感できるでしょう。

いくつか注意点を挙げます。

長くなっている文があれば要注意です。三〇字から五〇字を目安に考えましょう。それ以上の場合、できるだけ二文に分けるようにします。一つの文は、一つの情報とそれが伝えたい判断を表します。それが長いと読み手にどのような情報なのか伝わりにくくなります。

引用をする場合は、その基になっているものをきちんと確かめましょう。引用を間違えると作品全体の信用が落ちてしまいます。

首尾の呼应を確認しましょう。最初の書き出しと終わりのまとめが対応しているかどうかを確かめることです。首尾の呼应が配慮されていると読んだ後の納得感が高まります。

小論文は、小ぶりながら知らない人にも読んでもらうように書いた、いわば公式の作品です。漢字の適切な使用、接続語の適切な使用、同音異義語の使用などは、辞書を引いて間違えがないかどうかを確かめましょう。

文末を考えましょう。同じ文末が繰り返されると書き手の考えが平板なものに見えます。推敲の時に、少しずつ変化をつけましょう。特に「思う」「思います」「の連発は、考えの曖昧さの印象を与えることになります。正式な題名は最後に付けます。完成した内容に合わせて、仮につけておいた題名を効果的な題名に変えます。入賞作品の題名は見てください。

⑨ 最終チェックで身だしなみを整える

最終のチェックとは、外出するときに自分の姿を鏡に映して、きちんと

とした身なりになっているかを確認するうちに、文章も確認するという最終段階です。文章のレベルを落とすしてしまうようなやや幼稚な表現や同じ接続語の繰り返し、文末の敬体と常体の混在などに気を付けましょう。

六、小論文作成の手順—みちすじのモデル—

小論文作成の手順を整理してみます。この手順がすべてではありませんが、一つの標準的なものとして参考にしてください。

① 日々の学びを見つめ直す

② 「もやもや」したテーマを引っ張り出す

③ 材料集め・情報収集を行う（調べることを加える）

④ 集まった情報を分類し、整理する

（取り上げるもの、捨てるもの）

⑤ 構想図・構想メモ・設計図を作る

⑥ まず書く（試作品を作る）

⑦ 試作品を改良する・推敲

—自分の力と仲間・友だちの力—

⑧ 完成品を書く

⑨ 最終チェックで身だしなみを整える

第12回 小論文グランプリ入賞作品集

令和7年2月

発刊・編集 京都府教育委員会 学校教育課

TEL 075-414-5833

